

外郭団体ミッション遂行評価票

【平成26年度取組結果】

団体名	公益財団法人 北九州市環境整備協会
-----	-------------------

所管課	環境局 業務課
-----	---------

<p>団体に対するミッション</p> <p>ごみ収集部門では、市民サービス水準を維持するとともに、収集コスト面で民間委託業者を牽制する役割を担う。</p> <p>検査分析部門では、市内唯一の浄化槽法定検査機関としてその役割を着実に担うとともに、環境学習・啓発・国際協力事業を積極的に展開する。</p>
--

<p>行財政改革大綱における見直し内容</p> <p>現在、同団体は、環境保全への貢献、ごみ収集における市民サービスの水準の維持、収集コスト面での民間への牽制などの役割を担っている。</p> <p>今後、家庭ごみの収集業務の全面民間委託化を進める中で、委託化の進捗状況を十分に見極めながら、同団体のあり方や役割を検討していく。</p> <p>検査分析部門のうち、民間と競合する部分については、今後のそのあり方を検討する。</p>
--

ミッションに基づく中期計画

3~5年後に目指す状態	<p>ごみ収集部門では、継続して収集コスト面で民間委託業者を牽制する役割を担う。</p> <p>検査分析部門では、環境学習・啓発・国際協力事業を積極的に展開して、参加者数、育成技術者数の増加を図る。</p>
-------------	---

主な成果指標	年度ごとの目標及び実績（太枠は最終目標年度）						
	H25 実績	H26 目標 実績		H27 目標	H28 目標	H29 目標	H30 目標
ごみ1トンあたりの収集運搬経費	<協会> 12,960円 <民間> 16,122円	民間業者より 安価な収集運搬経費を維持	民間業者より 安価	民間業者より 安価	民間業者より 安価	民間業者より 安価	民間業者より 安価
評価・提言の周知状況 (自然環境の調査研究)	新聞等に 公表	HP掲載及 びマスコミに 公表	未実施	HP掲載	HP掲載	HP掲載	HP掲載
子どもの参加数 (環境学習事業)	647人	650人	650人	650人	650人	650人	650人
発展途上国の育成技術者数 (累計)	828人 (H21年以降)	928人	930人	1,030人	1,130人	1,230人	1,330人

ミッションの遂行状況の評価（平成26年度）

<p>団体における評価</p> <p>ごみ収集部門では、安価な収集運搬経費を維持し民間業者をけん制する役割は果たせたと評価する。</p> <p>検査分析部門の環境調査については天候不順により中止したため、マスコミを通じた広報ができなかったが、その他の環境学習・国際協力については、積極的な取組により、環境学習・啓発、国際協力の役割を果たせたと考えている。</p>	<p>市の評価</p> <p>ごみ収集部門では、安定的かつ適正な収集運搬業務を行い市民サービスの水準を維持しコスト面でも民間業者を牽制する役割を担っている。</p> <p>検査分析部門では、マスコミを通じた広報ができなかったため、調査方法等の見直しが必要である。また、引き続き子どもの参加数や発展途上国の育成技術者数の拡大に向けた取り組みが必要である。</p>
<p>今後の課題及び見直し内容</p> <p>天候に左右される環境調査では結果を周知できないこともある。天候不順の影響を受けにくい調査方法について、検討したい。具体的には、新たな調査方法（紫川に生息する水生生物調査）を開始し、マスコミ等を通じて広報・啓発していく方針である。</p>	<p>団体への改善指導内容</p> <p>ごみ収集部門に対しては、ごみ収集部門では、作業中に運転手が骨折する事故が1件起きているため、事故の原因究明と再発防止等の徹底や重大事故の発生ゼロに向けて指導していく。</p> <p>検査分析部門の環境調査については、調査方法等の見直しを行い、市内外の子どもたちへ環境保全の取組を広く広報・啓発していくよう指導していく。</p> <p>あわせて、検査分析事業のみならず、環境学習や国際協力事業の取組も積極的にPRしていくよう指導する。</p>

その他～「行財政改革大綱における見直し内容」の取組み状況

見直しの分類	－
<p>より効率的な経営を目指し、平成26年度から市OBポスト（庶務課長）の見直しを行なった。</p> <p>ごみ収集部門については、安定的かつ効率的な収集体制を確保するため、主任2名の増員を行うとともに、車両2台の減車、業務員6名の減員を行った。</p> <p>検査分析部門については、収支を改善させるため、コスト削減を行うとともに受注増を目指した取組を行った。</p>	